



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要					
建物名称	ネットヨタ静岡「草薙計画」	BEE	1.1	BEEランク	B+
					★★★

2. 重点項目への取組み度					
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	凡例	コメント
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.2	/5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0	/5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.3	/5		ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.5	/5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価	4点以上	ふつつ	3点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	3.2
<p>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ④空調・給排水配管は、給排水にB(40年耐用)に分類される管を使用した。</p> <p>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑥敷地の64.6%分の空気を確保し、風の通り道を確保した。</p> <p>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦各種断熱材を用いて、省エネ法におけるBPIを0.87に抑え、建物外皮の熱負荷を抑制した。 ⑧建築物省エネ法に適合できるようにBEIm=0.96とし、建築物省エネ法に適合させた。</p> <p>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材の使用回避) ⑪標準洗浄水量大4.8L/回、小3.6L/回の節水便器を採用している。 ⑫躯体材料以外において、再生アスコン、再生路盤材を使用している。 ⑬ホリスティックフォーム、ケルタンフォーム、フラスカール、フェノールフォームはいずれもODP=0であり、オゾン層破壊のリスクがない。</p> <p>■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭CO2自動計算より、ライフサイクルCO2が一般的な建物の95%である。 ⑮夏季の卓越風向について、隣棟間隔指数1.2とし、敷地内を通る風が回復しやすいように配慮した。</p>	<p>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</p> <p>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</p> <p>3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</p> <p>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</p> <p>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</p> <p>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</p> <p>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</p> <p>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</p> <p>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</p>	<p>⑤ 生物環境の保全と創出</p> <p>⑥ 敷地内温熱環境の向上</p>	
	<p>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>2 ⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>3 ⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>4 4.1 ⑩ モニタリング</p> <p>4.2 ⑩ 運用管理体制</p>	<p>⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</p> <p>⑧ 自然エネルギー利用</p> <p>⑨ 設備システムの高効率化</p> <p>⑩ モニタリング</p> <p>⑩ 運用管理体制</p>	
	<p>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</p> <p>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</p> <p>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</p> <p>3.2.2 ⑬ 断熱材</p> <p>3.2.3 ⑬ 冷媒</p>	<p>⑪ 節水</p> <p>⑪ 雨水利用システム導入の有無</p> <p>⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</p> <p>⑫ 材料使用量の削減</p> <p>⑫ 既存建築躯体等の継続使用</p> <p>⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</p> <p>⑬ 有害物質を含まない材料の使用</p> <p>⑬ 消火剤</p> <p>⑬ 断熱材</p> <p>⑬ 冷媒</p>	
	<p>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑭ 地球温暖化への配慮</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.0
<p>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)</p> <p>⑯静岡県の条例に従い、建築基準法に定められた20%の耐震性を有する。 ⑰標準洗浄水量大4.8L/回、小3.6L/回の節水便器を採用している。 ⑱災害時・停電時に備え、自家発電設備を設置した。 ⑲機械設備およびその配管の支持において、耐震クラスAの設計をしている。 ⑲通信設備は、光ケーブル・タルケーブルの2種で、光ケーブルはNTT・KDDIの2社から引き込む。</p>	<p>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</p> <p>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</p> <p>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</p> <p>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>2.4.3 ⑰ 電気設備</p> <p>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</p>	<p>⑯ 耐震性</p> <p>⑯ 免震・制振性能</p> <p>⑰ 空調・換気設備</p> <p>⑰ 給排水・衛生設備</p> <p>⑰ 電気設備</p> <p>⑰ 機械・配管支持方法</p> <p>⑰ 通信・情報設備</p>	
	<p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点	3.3
<p>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)</p> <p>⑱建築物移動円滑化基準チェックリスト(最低限のレベル)をすべて満たしている。 ⑲売り場の階高は5m以上で、空間の壁長さ比率は0.33と、空間に余裕を持たせた。 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) ㉑屋外展示場を配置できる程のヒコイを設け、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。</p>	<p>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</p> <p>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	<p>⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</p> <p>⑲ 階高のゆとり</p> <p>⑲ 空間の形状・自由さ</p> <p>㉑ 地域性への配慮、快適性の向上</p>	
	<p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	2.5
<p>■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上)</p> <p>㉒外装・植栽・照明において、くさなぎ景観ガイドブックに沿うものとし、草薙らしい景観の形成に配慮した。 ⑳敷地の64.6%分の空気を確保し、風の通り道を確保した。 ■敷地外環境対策 (㉓持続可能な森林から産出された木材/㉔温熱環境悪化の改善) ㉔夏季の卓越風向について、隣棟間隔指数1.2とし、敷地内を通る風が回復しやすいように配慮した。</p>	<p>Q-3 1 ⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>2 ㉑ まちなみ景観への配慮</p> <p>3 3.2 ㉒ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑳ 生物環境の保全と創出</p> <p>㉑ まちなみ景観への配慮</p> <p>㉒ 敷地内温熱環境の向上</p> <p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	
	<p>LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	<p>⑫ 持続可能な森林から産出された木材</p> <p>⑮ 温熱環境悪化の改善</p>	

# CASBEE<sup>®</sup> - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	ネットヨタ静岡「草薙計画」	階数	3
建設地	静岡市清水区草薙字堀下2194-2	構造	S造
用途地域	準工業地域・法22条区域	平均居住人員	214 人
地域区分	7地域	年間使用時間	2,340 時間/年(想定値)
建物用途	物販店	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年11月 予定	評価の実施日	2021年12月17日
敷地面積	4,765 m <sup>2</sup>	作成者	相模 明
建築面積	1,540 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	3,129 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆☆

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比したライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 3.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.4

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

### LR 環境負荷低減性

**LR のスコア = 3.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 2.9

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

### 3 設計上の配慮事項

総合	その他
これは、CASBEE静岡2016年版(ver4.0)による評価である。	ネットヨタでは、トヨタ自動車等の新車・中古車販売、および自動車の点検・整備等を行っています。
<b>Q1 室内環境</b> 仕上げ材を全てF☆☆☆☆相当の材料を使用することで、シックハウス対策に配慮した。	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 外装・植栽・照明において、くさなぎ景観ガイドブックに沿うものとし、草薙らしい景観の形成に配慮した。また、屋外展示場を配置できる程のヒコイを設け、都市空間の活動上のアメニティ向上に貢献した。
<b>LR1 エネルギー</b> 各種断熱材用いて、省エネ法におけるBPlmを0.87に抑え、建物外皮の熱負荷を抑制した。	<b>LR3 敷地外環境</b> 隣等間隔指標Rw=1.2をマークし、夏季の卓越風向に沿う風が敷地を通る際に回復しやすいように配慮した。また、「光害対策がイドライン」「広告物照明の扱い」ともにリストの過半を満たし、屋外照明の外に漏れる光が光害を与えないよう配慮した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■ 「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■ 評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される